

# 1. 巻頭言

## センターレポート10号によせて



総合情報処理センター長

小山 純

平成2年4月、山田英二先生の後をついで長崎大学総合情報処理センター長に就任いたしました小山 純です。微力ながら、運営委員の先生方、センターの職員のお力添えを得てなんとか職務を全うしたいと考えております。ご支援、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

編集委員として創刊号のお手伝いをさせて頂いたセンターレポートも、今回で10号となりました。当時情報処理センターに導入され、大型電子計算機といわれたFACOM M-180 II ADの主記憶装置は2MBで、処理速度は2.8MIPSでした。現在では高級なパソコンにでも装備されている記憶容量・処理速度です。この間の計算機環境の変化には目を見張るものがあります。急速な情報機器の進歩に応じて、最新のハードウェア、ソフトウェアそしてサービスを提供できるようにセンター職員一同努力して参りたいと思っています。

現在総合情報処理センターが力をいれて取り組んでいる課題の1つに”長崎大学キャンパス情報ネットワーク構想”があります。

近年外国の研究者から頂く名刺の中に電子メールのアドレスを刷り込んだものが増えてきました。特にアメリカでは文系、理系を問わず研究室にマッキントッシュやIBMのパソコンを置き、国の内外の研究者と電子メールを交換するのが一般的となっています。最近、安価なワープロでも通信機能を持つようになりました。わが国でも今後、高速、确实、安価で秘密性に優れた電子メールが普及してくることが考えられます。

そこで私たちは、パソコンやワープロ等必要な機械さえあれば、どの研究室からでも自由に電子メールを発信、受信できる環境を早急に整備することが大切だと考えています。

どの研究室からも電子メールを送受信できる環境を作るということは、パソコンやワープロをお互いに結ぶための通路、すなわちネットワークを作るということで

す。ひとたびネットワークができると、そこに接続されたコンピュータやプリンタなどを必要に応じて、相互に利用することができるようになります。研究室から総合情報処理センターのコンピュータを利用することが現在よりもっと簡単になるのは勿論ですが、学内図書館のコンピュータに接続して文献検索を行う等も将来はできるようになるでしょう。

総合情報処理センターでは、全学のご理解を得るために、パンフレット”長崎大学キャンパス情報ネットワーク構想”を発行し、アンケート調査を実施しています。キャンパス内に光ケーブル幹線を設置し、さらに研究室まで支線ネットワークを張り巡らせる事は簡単な仕事ではありません。全学の皆様方のご協力、ご援助を心よりお願い申し上げます。